IN THE GOOD OLD SUMMERTIME

TENNESSEE WALTZ

LES PAUL and MARY FORD

Capitol RECORD

Capitol RECORDS

Z-88

昔なつかし夏のころ

レス・ポールと
メリー・フォード

IN THE GOOD OLD SUMMERTIME

In the good ol' summertime
In the good ol' summertime
Strolling down the shady lane
With my sweetheart fair
I hold his hand
Then he holds mine
That's a very good time
That's my tootsie wootsie
In the good ol' summertime
Down by the shady lane……
Down by the shady lane……
Down by the shady lane……

MIYACODŌ MUSIC SHOP
9ST NAKADORI KURE
TEL 4182
YOTSUDORO CORNER
TEL 3987

"昔なつかし夏のころ"は広く全米の人々に古くから歌われている歌です。夏の思い出の歌ですが、一年中夏であろうと冬であろうと、あらゆる季節、暑い寒いを超越して、いつでも歌われています。メロディは非常に親しみやすいもので、一度きいただけで覚え込んでしまうほどに簡単なものでもあります。

昔なつかし夏のころ
昔なつかし夏のころ
好きな人と二人で
日蔭の多い小道を散歩していた
わたしはあの人の手をとった
あの人も私の手をとった
ほんとにたのしい時であった
そしてそれは私の幼いころのことだった
昔なつかし夏のころ
日蔭の小道のことだった。

歌詞はこのように素朴なものです。この歌ができたのはちょうど50

テネシー・ワルツ

レス・ポールと
メリー・フォード

TENNESSEE WALTZ

I was dancing with my darlin' to the Tennessee Waltz,

When an old friend I happened to see;

I introduced her to my loved one, and while they were dancing,

My friend stole my sweetheart from me.

I remember the night and the Tennessee Waltz,

Now I know just how much I have lost;

Yes I lost my little darlin' the night they were playing

The beautiful Tennessee Waltz.

年前の1902年。そのころミンストレル・ショウと言って、白人の役者が顔を黒く塗ってニグロにふんし、ニグロ風な歌を歌ったり、踊ったりするショウがアメリカでは盛んでしたが、そのミンストレルの役者ジョージ"ハネー・ボーイ"エヴァンスはコニー・アイランド近くのブライトン海岸を巡業している時、仲間のレン・シールズと二人で、ボードビル歌手のブランシェ・リングを誘って夕食に出かけた事がありました。三人が雑談している時、ジョージはいろいろな話の中で、"昔なつかし夏の思い出ほどいいものはない"と言いましたが、この言葉をきいてシールズは"In the good old summertime"は歌のタイトルになるゾ!と言って、この言葉をノートに書きとめておきました。それから数日後、レンはジョージのところへ、この歌詞を書きあげて持って行ったものです。そこで、これを見たジョージは、読むやいなやたちまち霊感に打たれたように、五線紙にスラスラとそのメロディを作って行った、というエピソードがあります。

ブランシェは彼女の出演した次のショウでこれを歌いましたが（ボストンのコロンビア劇場）この時客席に突出した花道を作り、ブラン

シェがこの歌を歌いながら花道を行進するという新しい演出を試みました。その時、前から10列目くらいまでに入っていたハーバートの学生達は、彼女に合わせて歌って非常な人気を獲得しました。それ以来この突出し花道はレヴュウ・タイプの出し物にはつきものとなり、この歌は聽衆からいつも待望されることになつたと言います。

レス・ポールのニュー・サウンドを伴奏としてメリー・フォードはダブル・テープにユニゾンで第一コーラスを歌います。そして第二コーラスに入ると"Down by the shady lane"を一つのリフの型として、メリー・フォードはくり返しくり返し、二コーラスにわたつて歌い、これをバックとして、レス・ポールのギターが奔放な独奏をきかせます。そして最後にもう一コーラス、メリーのヴォーカルとなります。

"テネシー・ワルツ"はウエスターンの作曲者として有名なピー・ウィー・キングの手に成るもの、そして1昨年の大ヒットとしてウエスターン・バンドばかりでなく、あらゆるダンス・バンドにも演奏されている曲です。

恋人とダンスに行つたが、そこに来ていた古い友達に恋人を紹介したら、結局友達は僕の恋人を横どりしてしまつた。

というようないかにも土臭い素朴な歌詞です。しかしメロディは非常に美しく、感傷的なムードもあつて、一度きいたら忘られぬほどに強い印象を残します。

短いイントロに続いてメリー・フォードは柔らかいタッチの声で第一コーラスを二重唱します。次に後半コーラスをポールのギターが独奏し、終つてもう一度メリー・フォードの二重唱としています。

このような一人二重唱のやり方はテープの操作によるもので、初めにもとのメロディを吹込んでおき、これを演奏しイーヤ・ホーンできながらもう一つの声を歌い込んで行く、という方法によるものです。レス・ポールは彼のギター、メリー・フォードのヴォーカル、もう一人ベイスと三人でいつも演奏していますが、このテープの操作については早くから研究をつづけ、遂に美事成功したものです。彼のレコードは大てい四回乃至五回は重ねて吹込んだもので、その音のひびきも、色々変化をつけています。これをニュー・サウンドと稱して、昨年度以来非常に好評を博しているのであります。　　(解説・野川香文)

Z-88 KING RECORD CO., LTD.